なぜ植樹活動が豊かな海に繋がるのか？

1. 植樹によって木々が増え、森林が再生する
2. 木々の葉が地面に落ちて腐り、有機栄養素となる
3. 有機栄養素が微生物に分解され、窒素やリンなどの無機栄養素となる
4. 無機栄養素が積み重なり、腐葉土（土状になった栄養）が形成される
5. 雨などにより、栄養が川から海へと流れ出る
6. 海中の栄養が増加し、それを食べるコンブやワカメなどの海藻類が増える

日本海グリーンベルト構想推進協議会の取り組み

今年も、１０月３日に「豊かな海づくりのための植樹祭」が開催され、中高生や漁業関係者を含め３５０人が参加し、約２０００本に及ぶ「トチ」「カシワ」「ミズナラ」の苗木を植樹しました。

この３種類の苗木は、本町の植樹祭で指導を行っている宮脇昭氏の「潜在自然植生※」の考え方を取り入れ、町内に自生している木から種子を採取して苗木まで育てたものを使用しています。また、関東在住の町出身者で構成される「東京かみのくに会」から寄贈された苗木も含まれております。

今後も日本海グリーンベルト構想推進協議会では、豊かな海の再生を目指し来年以降も継続した植樹活動を行っていく予定です。なお、この事業は太陽北海道地域づくり財団からの交付金で実施しました。

※潜在自然植生とは、常に人間の手入れが必要な単一の樹種で構成される人工林を作るのではなく、その地域に元々自生している樹種を複数折り混ぜ、人間の手入れを必要としない地域本来の自然を再生させることを目的としています。

宮脇氏の経歴
1928年　岡山県成羽町で生まれる
1952年　広島文理科大学生物学科卒業
1973年　横浜国立大学環境科学研究センター教授就任
1985年　同センター長就任
1991年　朝日賞受賞
1992年　紫綬褒章受章
1993年　横浜国立大学名誉教授
(財)国際生態学センター所長就任
1995年　ドイツ・チュクセン賞受賞
1997年　国際植生学会世界初の名誉会員
2000年　勲二等瑞宝章受章
2006年　ブループラネット賞受賞

今、私たちが生きるために必要不可欠な森林が減少し、様々な場面で跳ね返ってきています。
植樹は50年先、100年先を見据えた息の長い事業です。
皆さんの子や孫の世代に豊かな森と海を残せるように、これからも木を植え続けてください。
私は今年で85歳になりますが、私はあと30年は頑張りますので、皆さんも一緒に頑張りましょう。

みやわき　あきら
宮脇　昭 氏